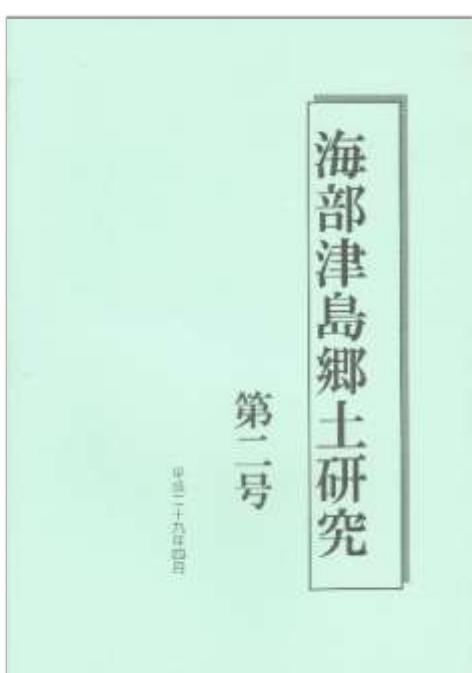


## 『海部津島郷土研究 第二号』

サイズ：A5版 ページ数：158ページ



長い歴史の中で育まれてきた伝統行事の過去の様式を知る上で、江戸時代に映像技術は当然ながら無いため、手がかりとなるのは書籍であり図絵や文書です。幸いにして、江戸時代、尾張藩の地誌は充実し『寛文村々覚書』、『張州雑志』、『尾張徇行記』『尾張名所図会』などがあります。地誌には、自然・地形・気候・人口・交通・産業・歴史・文化の諸要素が含まれています。これらを基にしたテーマ別・要素別の郷土研究は今後とも重要です。一方、市町村史の資料編などに収録されている文書や、未整理の旧家所蔵の文書類に基づく研究も、郷土を深く知るために増々重要になってきています。

地誌類・文書などの研究から得られた知見を現代に生かすこと、現代の実践を未来に生かすこと、この二つが郷土研究の趣旨です。皆さまのご支援により、海部津島郷土研究第二号を刊行できました。本書が地域の役に立てば幸いです。

### 構成

- 1 近世後期尾張藩における村落指導者層の動向 石田泰弘 著
- 2 織豊期津島社における牛頭天王信仰について  
　　領主との関係、「津島社勧進帳」より読み解く 羽柴亞弥 著
- 3 尾張津島天王祭の閏六月祭礼について 黒田剛司 著
- 4 郷土愛を育てるふるさと学習  
　　天王子ども塾の実践から 浅井厚視 著
- 5 近代の海部地域と黎明期の津島市立図書館  
　　明治大正期の津島市立図書館史 園田俊介 著

発行日：平成29年(2017)4月5日

著　者：石田泰弘・羽柴亞弥・黒田剛司・浅井厚視・園田俊介

発行所：NPO法人まちづくり津島、天王文化塾

価額：800円（税込） 送料：210円